



女
子
學
集
五
編

方
冊
子
集
卷
五

^ 13
2905
5



樂亭西馬作

六編

稻妻形怪鼠標子

板出

一勇齋國芳画

七編

芳紅夢

國貞画

字津谷嶺

種清録 全三編後切

壽笑亭笑壽作

五編

與謝正郎戀夜話

一壽齋國貞画

六編

比異二個

筆多山果信 四編
一壽齋國貞画 五編

文久元年辛酉孟春新刻

錦昇堂

江戸の町

羨羨返假寐第五編叙

江湖上の人奇を好む。性若かりみか
然り。次之。戯文の冊子小。於て。芥子園画譜

まば。人歎び。世。因。を。新。考。を。精。入。り。人

と。固。陋。涉。学。少。多。採。入。れ。あ。り。い

今。世。無。不。有。来。り。て。世。の。人。情。世。態。を。こ。ろ。こ

多。り。彼。子。紙。し。て。ま。ら。一。編。の。趣。向。を。お。せ。と

奇きもさき條一箇も非唯幼童
如き飽きしむる察も人の心然
と作者の用意とて是も人も蓋
先輩教訓真ら教十百部作まる文
一段の心を察て教て一部の條は直
竊ふ減るもつらとどかの戲傷の切
後たきまき先もあけれど二三幕は

良知して看官辛ひ群を多し
世の世もおまじ小通一教訓
時乃人情を消らるる所

外心の花はちり初日

拙者のあめ下 能



澗 血 成 波 鬪 蘇 吞 蛟

深

游 魚 樂

不 知

一 齋 齋
小 齋 齋

松竹屋
於 輸 耶



か くれ の 州
み ち へ
ま け
ま け
ま け

北 條 の 臣
其 臺 原
瀬 太 郎



大多屋 於好

別代

廿三歳



大多屋の二男

大多屋の本妻於騎

かのく、かた 姿を令めり。我劣らんと化粧し。後あの
不ふ方かたより。群ぐんぐるとして来る。その中なかに。水みづ際ぎはの立たお那な結むす
が親おや。白しろ染ぞめ天あまが長なが恨うらみ歌うた不ふ揚あがり者もの。犯とがを被か喰くと。二ふた千せん
の宮みや女むすめより。更さら不ふ教しやくのきあ。と。つをまじ。ゆはあ。ん
初はじめてて洞ほら金かね亭ていへ住すまひけ。ま。ま。女むすめ妹い物ものの人ひとに侍まじらけ。い
ぎく。此こゝ方かたと案あん内ないとして。奥おくの二ふた百ひゃくへ連つらぬまける。お耶や
蘇す乃の方かたに侍まじら女むすめ友とも個ひと父ちちの鶴つるあ。妻つまのつが屋や副ふて。男おとこの供とも由よし
者もの。連つらがこと。表あらわす。せ。徐ゆるく。とら。通とほま。侍まじら。女むすめと。あ

甲か非ひ文ぶんと。ま。く。腋わき紗し累るいと。ま。わ。披ひき。中なかより。出で次つぎ懐なつか中なかの。死し
粧まゆげ乃の鼻はなで。款か垂ちさ。せ。侍まじら。る。や。ど。ま。く。入い来きる。い。か。の。ま。を。示しる。粧まゆげ
を。御ご男おとこの。の。ゆ。と。列り腹はら不ふ作さくを。膳ぜんら。い。あ。ら。祐たすけと。も。是こゝ將まさ二ふた
へ。こ。ま。で。え。ま。る。ち。ま。ら。う。ち。ま。ぬ。ま。り。め。い。ま。う。こ。ま。ま。づ。へ。
ま。の。小こ神かみと。羽は織お柳やなぎ條じょうの。袴はかまゆ。お。月つき言こと。黄わう金きん作さくと。の。
大おほ小こ心こゝろ色いろも。あ。る。と。の。打う拵づゑ。か。の。様さま物もの不ふと。衣い粧まゆげして。こ。ま。で。
今いま日ひ。大おほき。小この。昔むかし芳よし。今いま。一ひとま。く。あ。り。ま。し。こ。う。全ぜん体たい老らう若じやく
由よし乃のい。と。ん。携たづなら。う。と。乃のい。と。ん。用もちと。世よに。入いる。ま。ま。で。先ま
か。ま。不ふ。ま。の。拙せつ者ものと。う。は。ま。の。つ。い。は。ま。の。通とほら。う。て。色いろい。ら。



男子

だつ去亭

調金亭
頼太郎
於耶輸之見

つるまの

逢ふ

まきの半か、門つては後敷を帯、その初め。か耶蘇を足
るう、笑く、さ成わど先、途申ひて、見初め、女見、不遠、入
ま、初、率、首、尾、して納、茶、由、不、く、緒、を、元、抱、人、と、拍、或、満
と、端、由、身、不、副、ぬ、ま、で、行、併、と、能、ぬ、さ、元、さ、う、碎、る、が、如、く。
あ、り、初、く、この、初、不、動、然、と、一、さ、が、初、對、面、彼、こ、の、人、
ハ、彼、ま、の、基、と、拍、を、沈、め、て、う、ち、笑、ひ、一、ヤ、と、さ、い、ひ、四、む、さ、
こ、の、ま、さ、志、父、爺、う、ら、ま、の、孫、物、へ、被、下、ま、せ、う。サ、ア、く、一、献
何、ハ、あ、い、と、も、一、古、指、あ、ら、頂、き、ま、ま、さ、然、と、直、に、必、入、の、所、
の、如、く、不、意、の、遺、取、取、海、を、程、よ、く、あ、ら、み、あ、ら、ま、ぎ、と、の、産
を、ま、つ、う、ま、と、暇、も、し、て、父、と、ま、り、供、引、つ、ま、て、帰、り、お、い、ぬ、不
意、系、敷、を、帯、初、の、孫、物、と、さ、う、向、ひ、一、ヤ、大、き、不、意、若、者、く。
ま、ア、寛、う、と、一、杯、飲、ん、ま、う、う、徐、々、出、う、け、せ、せ、う、ト、茶、坊、の
女、不、意、付、く、ま、さ、と、種、く、の、敷、を、出、さ、せ、彼、孫、物、と、初、う、ら、ま、
酒、不、意、付、を、碎、を、置、り、一、サ、テ、先、刻、松、竹、屋、の、志、父、爺、の
口、復、傳、不、意、付、と、う、う、か、あ、り、由、後、嘆、と、ら、う、う、う、う、う、う、う、
不、と、縁、づ、で、見、合、を、一、と、う、う、見、飛、極、る、と、の、人、海、見、也

の、如、く、不、意、の、遺、取、取、海、を、程、よ、く、あ、ら、み、あ、ら、ま、ぎ、と、の、産
を、ま、つ、う、ま、と、暇、も、し、て、父、と、ま、り、供、引、つ、ま、て、帰、り、お、い、ぬ、不
意、系、敷、を、帯、初、の、孫、物、と、さ、う、向、ひ、一、ヤ、大、き、不、意、若、者、く。
ま、ア、寛、う、と、一、杯、飲、ん、ま、う、う、徐、々、出、う、け、せ、せ、う、ト、茶、坊、の
女、不、意、付、く、ま、さ、と、種、く、の、敷、を、出、さ、せ、彼、孫、物、と、初、う、ら、ま、
酒、不、意、付、を、碎、を、置、り、一、サ、テ、先、刻、松、竹、屋、の、志、父、爺、の
口、復、傳、不、意、付、と、う、う、か、あ、り、由、後、嘆、と、ら、う、う、う、う、う、う、う、
不、と、縁、づ、で、見、合、を、一、と、う、う、見、飛、極、る、と、の、人、海、見、也

けいど。まゝに祝儀の由を遣せん。シテ兄は女アはと小何
探あるう。知はれなく。焼敵を池に投てせり。深さ結
説ち女アおろし。昨日おあう。中この兄合といふの
由。西規定。実い先也。由飲んで。何卒縁を組さる。
先をさく。室といふ。ま。子お不。細い。是
おあ。侍んど。おア。その。解。小。合。の。口。後。さ。う。す
自己。少。お。ら。ぬ。く。お。あ。い。ま。ア。何。と。い。ふ。人。ト。宣。告。ら。と
て。探。物。が。の。程。より。と。種。く。不。道。從。煙。為。出。初。敷

不。い。ひ。お。き。う。う。を。今。更。不。ま。こ。の。ひ。連。ま。を。不。ま。く。
酒。狂。の。晒。為。不。強。ら。ま。ん。こ。ま。ま。ど。の。可。ぬ。撒。を。希。い。不
探。を。進。め。ま。敷。不。あり。可。サ。晒。為。い。ま。の。舎。人。ま。処。ま。く
笑。度。ヨ。毛。う。う。帰。つ。て。お。祝。不。容。子。い。何。折。と。と。ま。ま。こ
時。その。換。探。不。の。困。ら。ア。お。お。の。云。集。不。嘘。の。あ。る。也。
古。探。と。て。又。ア。お。ア。松。竹。屋。が。二。枝。の。音。を。ま。ま。の。う。ま。こ
他。不。秋。也。の。あ。る。う。お。あ。い。年。末。祝。儀。同。お。不。易。く。ま。る
とい。う。う。その。内。幕。い。知。つ。て。居。り。不。不。絹。を。忘。せ。終。

まをさし。史がアノ層にあらうを以て流しにせしむ。左招り
ゆあり。明後日の極良辰とらう。先まぬを以て書しう。
い方おきく支えんはせんと。中て果しを伴し
と。先さぬを由り極しと。伴位。大なる後日
の納茶と。あつたまをせしむ。アヤた格う史
がアモウ。お元抱おたのうと子。お嬢えおめさう。
お嬢のお嬢くつて。夜にお孫とぐをいません子。
おモウお羨しに卒私とりの他り。どうせ彼のい方
まをさし。世に人をも。家人お持しう。
アヤと。史お引之はる。税金亭と。お
兄合を。お侍にあつたア何でいませう。飛越
父造と。味の底云地の。あ
おお身つ。彼も。お新造と。あ
かありませう。私ど。彼方の。お新造と。あ
おや。父造お出世し。あ
おや。おは。あ子。何が。お

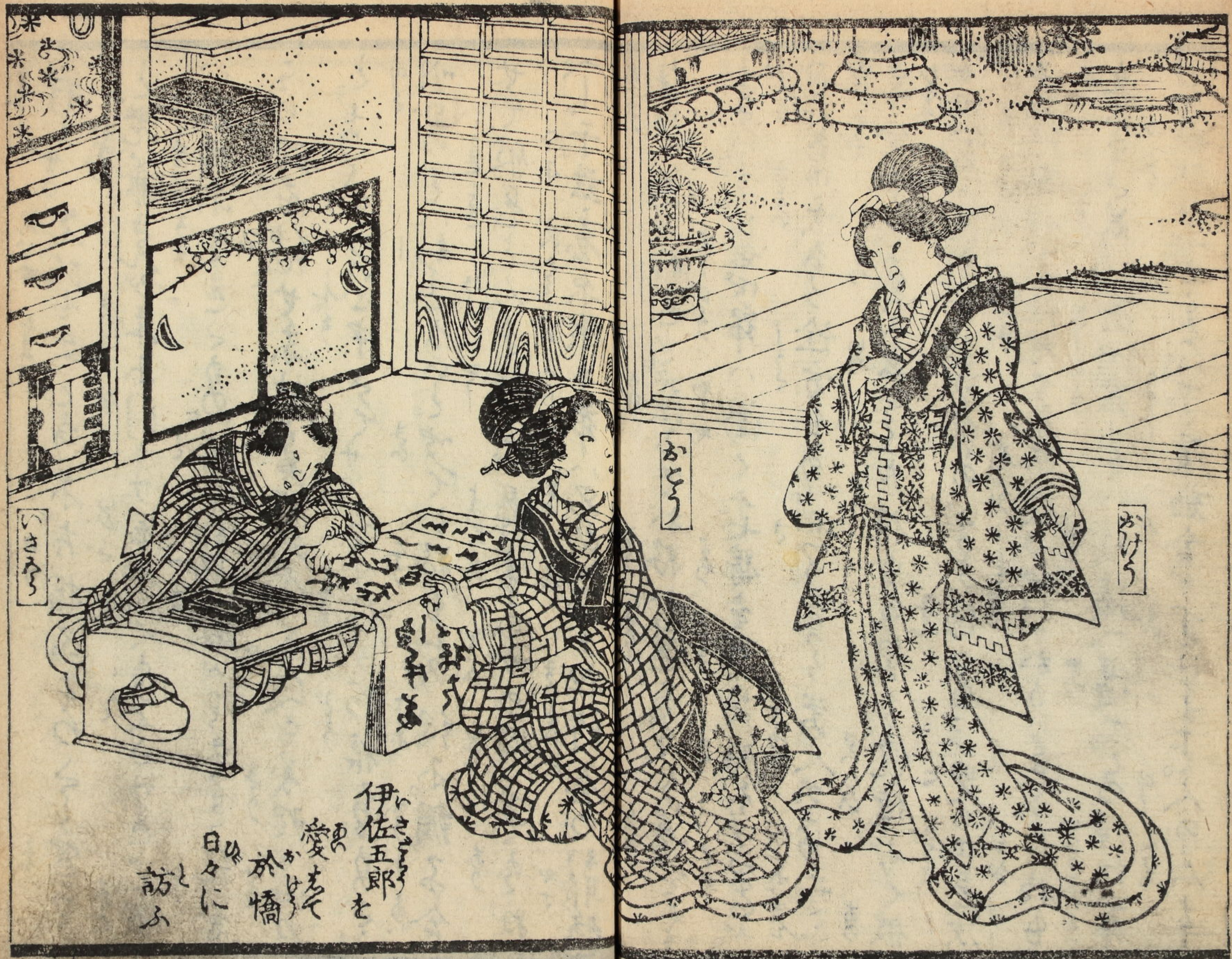
まをさし。史がアノ層にあらうを以て流しにせしむ。左招り
ゆあり。明後日の極良辰とらう。先まぬを以て書しう。
い方おきく支えんはせんと。中て果しを伴し
と。先さぬを由り極しと。伴位。大なる後日
の納茶と。あつたまをせしむ。アヤた格う史
がアモウ。お元抱おたのうと子。お嬢えおめさう。
お嬢のお嬢くつて。夜にお孫とぐをいません子。
おモウお羨しに卒私とりの他り。どうせ彼のい方
まをさし。世に人をも。家人お持しう。
アヤと。史お引之はる。税金亭と。お
兄合を。お侍にあつたア何でいませう。飛越
父造と。味の底云地の。あ
おお身つ。彼も。お新造と。あ
かありませう。私ど。彼方の。お新造と。あ
おや。父造お出世し。あ
おや。おは。あ子。何が。お

ごとくおふ人を主人お持て。祝状つきて居るのい様お
 然様子。とさううかたえお。昔くまうて由自己のい
 小色とおのふ人と連死ば一生の徳とあふヨシ。左振上
 吾儕のさうあふいとあはせ女のよう合て。差合りの話
 説む。さしおのさう他おあ。む大お小仕つえ。人のい
 茶お小斜めあぶ。頭との師と衣後の昔お。酒振
 おののを強くおと。漫おのふとあぶくぐん。おその主人
 が所持の果おのい者おとあふ。舞いんよ。謎めあふと
 舞あつと。大おお持を扱むるごあり。法ふを利おと
 指藏人いおまじ。かくて一月二月をさるふ。かの侍女
 小差いお。両おの株めかむ。網茶の親あとして。
 扱くの傍りあ。月輝をてて。お支玩人実あ。桂葉
 その他の老生。両三個由らち連て。五箇おらうの約を
 清らせ。松竹をく来るお。わぞせ方おのまごまご。老いお出
 て扱扱あ。この時。時あて。鶴あ。のい。実あ。桂葉の兩個
 お。知已とあう。この後のを。おかよ。おお。おとあまら。

ごとくおふ人を主人お持て。祝状つきて居るのい様お
 然様子。とさううかたえお。昔くまうて由自己のい
 小色とおのふ人と連死ば一生の徳とあふヨシ。左振上
 吾儕のさうあふいとあはせ女のよう合て。差合りの話
 説む。さしおのさう他おあ。む大お小仕つえ。人のい
 茶お小斜めあぶ。頭との師と衣後の昔お。酒振
 おののを強くおと。漫おのふとあぶくぐん。おその主人
 が所持の果おのい者おとあふ。舞いんよ。謎めあふと
 舞あつと。大おお持を扱むるごあり。法ふを利おと
 指藏人いおまじ。かくて一月二月をさるふ。かの侍女
 小差いお。両おの株めかむ。網茶の親あとして。
 扱くの傍りあ。月輝をてて。お支玩人実あ。桂葉
 その他の老生。両三個由らち連て。五箇おらうの約を
 清らせ。松竹をく来るお。わぞせ方おのまごまご。老いお出
 て扱扱あ。この時。時あて。鶴あ。のい。実あ。桂葉の兩個
 お。知已とあう。この後のを。おかよ。おお。おとあまら。

かん死あるかと。清かへ西畑の支那人さして准法せし
酒敷小へを執侍て。祝儀の月録と中下の等と領
て。いふを揚り。その日、友家さうめいあふ。其のまじりの茶室
いふを法務とあらむ。お情い血脈の伯母あまきど。何
招く。祭やう。気腹。跟と。独牙ある時ど。お不
ろと。男あう。涙を流む。時もあり。忍縁とかり。由多
か。下。今さう。膝を要あう。杉文伯母へのん死ひと。
第へ。この方日あまきさう。まづ。何時までも。独牙あて。在の
ま

借とかり。いふ。父とあう。只。骨小。膝を要あう。安堵せ
と。第へのり。お熱い。まじり。殊小。今。回。の。お。終。は。ま。り。の
縁。地。小。あ。い。と。終。ご。の。大。方。あ。う。ね。を。解。す。ま。い。て
まじり。不。孝。の。場。と。ん。小。い。を。ま。ね。ま。う。終。ひ。て。中。
後。を。彼。見。ま。う。と。い。ふ。人。の。笑。ひ。の。種。あ。ん。と。と。人。あ。
ま。ん。ま。う。痛。む。あ。う。う。途。方。多。く。先。納。茶。由。海。け。れ
は。か。ま。い。を。更。更。改。め。う。た。と。お。不。精。く。今。を。第。に。
ん。の。度。を。う。ち。明。て。ま。じ。り。を。借。る。と。ま。あ。ま。き。と。ま。ま。を。第。



いさご

かご

かご

伊佐五郎
愛を於橋
日々訪ふ

種々サ。先次由丈とあり。左指あまのつら。運らう
と。老爺さんが来不引け。云物て由んといはと。彼
ハ頼不生とてもの。殊不か耶麻がくまきと紀念
この跡を継せまけるやア。此んど人へも義理が海ぬ
と。モウくまの心中とてサ。あう何が何指あるのさ
明日のこゝろ。おまのいと。あてお好由との細不。細不念
せて彼見と人を織るが尋常の女の癖してあぬ
べ。于茲老爺来不指を布。必ひゆる松竹屋の。お耶孫

いこの次来不指へ大うと縁を組ぶるとの。字をまきさ
拓す。さ不。安来にさつむ。探物の。人未定て彼方也也。
いと惜く。必ひあら。何指由山園が。何くあ。ぬく
て。又も。不。後く。ま。ん。障りの。と。放不。ま。の。影る。との。口
後不。指を布が。親と。ハ。テ。残。ま。と。さ。と。を。う。輝。に。海
し。が。海。ぬ。の。い。指。を。布。が。胸。の。う。ち。供。何。指。と。さ。と。況
今。ま。さ。る。不。見。る。必。ひ。忌。僻。潜。脚。某。樂。い。日。未。出。入。さ。る。丈
の。こ。ろ。あ。ら。ぬ。不。合。の。善。不。好。が。世。活。人。あり。この。次。中。ら

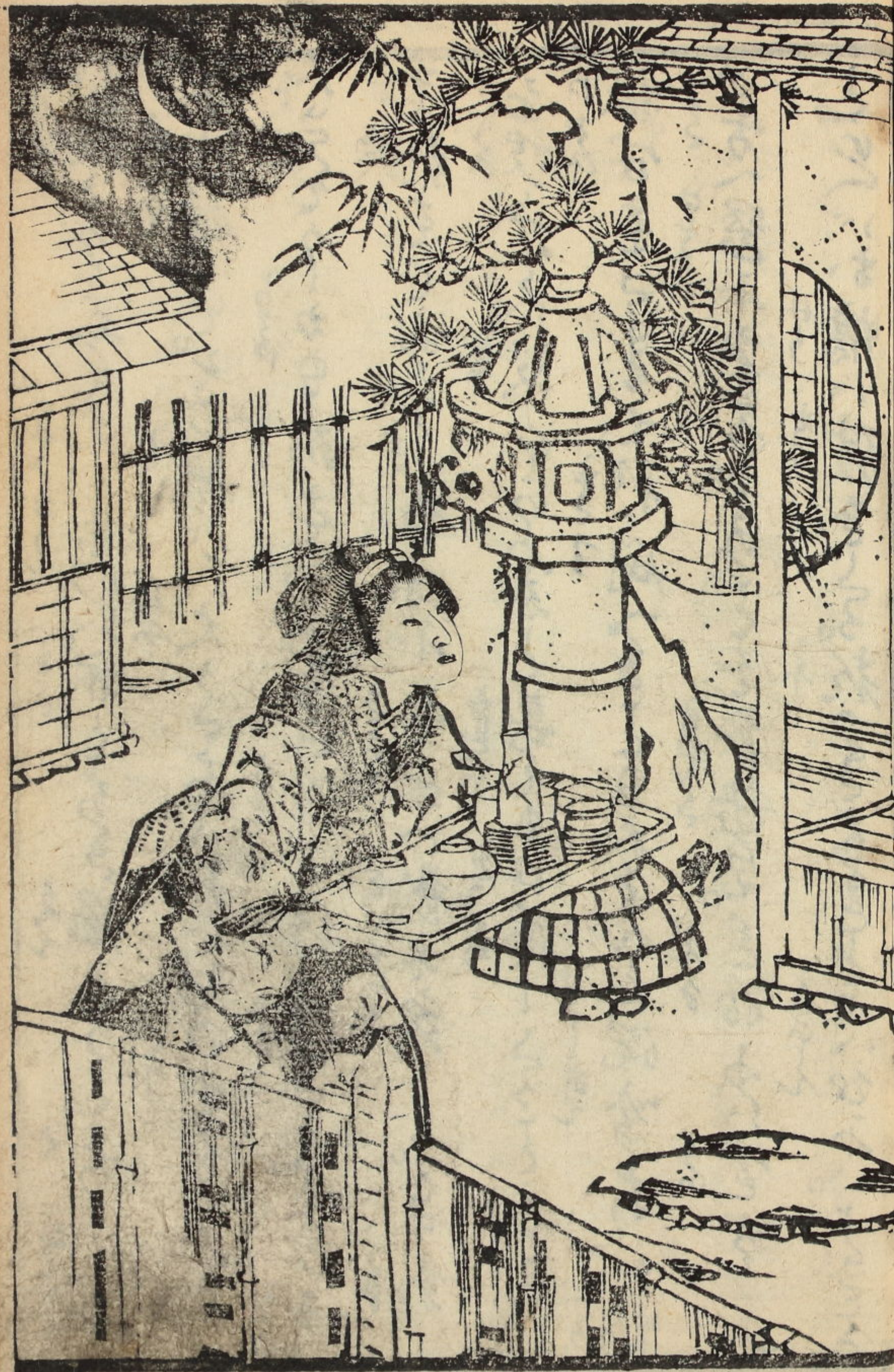
お前と共楽少で。お前の少女小うちむらひ概「モウ殺ハ
こと限う。解まう。非家お扱ひどナ。料理あふ左扱
云て来お何がモウ仕舞どつて。何扱ウ転向があるど
らう。何ぞ二種をうり子史して。物て呉おとよう云概「
今、用由移へう。その殺の出来るまで。休て居て持て
来さるー」イヤお旦那モウあさうお。是で官ぢぢアと
言ません概「ナニとまで官小由ら。解まう。麻末お執
扱ひど。自己どつておの宅へ。今日始めて来ぢア言せ。

月小二回也之回ぐい。観さる来る客人と勿痛痛不
由あるんけきど。左扱易くさきとちぢア。些積どトぢ
五六分の碎ふ小何うのそんとおるを押し「イヤ何扱
由。お前の子合も。思ひの他てごまかすを左扱まうー
ちぢア可嘆う。平生大子のおおとまるのう。近所の落
の勅平。刺殺のお子の防風を。ハリボケあんてとの人
旅を扱ひつひて居るりんどうう。ア何扱由収まうま
せん。サアくア。鬼をやく。修てお肴を左扱まうト先

まして少女も立てや。跡見送のて莞示と「エモレ美
とんまのな 見えぞ
是れ今今の新造のあうく 奇乗をこせくますねエ。モウ
一五年辛酉日也ア。実不男教しとのんご 概 ちと
モウ 七代十五ごう。イヤ時不新造とのいばける葎柄の
ちと ちと 見えぞ
地月を可老さう新造を月ご。ま後何旅と
うあめん「何でこせくまを可老さうア」まア 概 ちと
年のひん十六と云て十七也ア。まごあるめくとあう物
七 概 ちと 見えぞ
造が。陸おた敷赤身かと月入て老爺らうい人ご
連不「供中三三個居とアう子ごう。然由二十五日の月サ
縁日ごうごう解也う不人の出盛る最中ごうごう。まごその
見えぞ 見えぞ
新造の標致の袷さまアちとのと田之助あごア。是ト
へ由考はまねくとの人考ごう。往來の人ご金あり返ら
てんぬぬのあ。形まうい不佞あんせも。実不又惚
とんま 見えぞ
まご位でもあごごう。何旅あごごう出。概 ちと
う例ごう也否。眼を白く長くしてはうの泡を正馬を正
を頻るふりごき立て。柱ひまるののごう。イヤ 肝心の新由

まして少女も立てや。跡見送のて莞示と「エモレ美
とんまのな 見えぞ
是れ今今の新造のあうく 奇乗をこせくますねエ。モウ
一五年辛酉日也ア。実不男教しとのんご 概 ちと
モウ 七代十五ごう。イヤ時不新造とのいばける葎柄の
ちと ちと 見えぞ
地月を可老さう新造を月ご。ま後何旅と
うあめん「何でこせくまを可老さうア」まア 概 ちと
年のひん十六と云て十七也ア。まごあるめくとあう物
七 概 ちと 見えぞ
造が。陸おた敷赤身かと月入て老爺らうい人ご
連不「供中三三個居とアう子ごう。然由二十五日の月サ
縁日ごうごう解也う不人の出盛る最中ごうごう。まごその
見えぞ 見えぞ
新造の標致の袷さまアちとのと田之助あごア。是ト
へ由考はまねくとの人考ごう。往來の人ご金あり返ら
てんぬぬのあ。形まうい不佞あんせも。実不又惚
とんま 見えぞ
まご位でもあごごう。何旅あごごう出。概 ちと
う例ごう也否。眼を白く長くしてはうの泡を正馬を正
を頻るふりごき立て。柱ひまるののごう。イヤ 肝心の新由

何由丸出みふ まきご不こと特とくげののサそ。多た延えんを連つの老お爺や也と。供と由ゆ。
種たねとみみここけきと。何なにか収おさまるる気けの由ゆ也や。奔き藤ふ茶ちを志し
おの涙なみだごごけけ。謝あやまるるて抱かかりて二ふた個こと水みづ茶ちを
握にぎり揚あげる。獲とれる陽ひをとり入いれる。秋あきの由ゆ也や。の毛け毒どく也や。
我わ億い万まんのひと人びとがまてて嗜しむと云いふるりんどうらら。その老お爺や爺や
由ゆ送おとあるて。面おもてをま赤あかくて居ゐるけけ。吾わ儂らをいるる由ゆ
氣きの毒どくさし不ふ此こ方かたの茶ち店てん不ふ獲とれるをいりて茶ちを二三さん杯はい飲のみ
がら。影かげをあべるその女おんな見みいる。多た場ば町まちの松まつ竹たけ座ざの次つぎ娘むすめごと
いらふら。全ぜん体ていを振りし病びやうがある時時とき發はるこのいらふ
と。あらうらうら振ふる振持もちを人送お入いれる連つれて出でるのが。マアア忘われる遠とほ
公こう子し。大だい方かた人ひと顔かほ痛いたむのどらうら。正ただ宗むね通とほの標めい致ち也や。
百ひゃく人にん不ふ由ゆ信しんつと女おんな。左ひだり振ふりし信しん入いれる持もちといふの由ゆ也や。
因よ縁ゆかり也や。あらうらあらうらねエトト。突つて共其その樂がいふ不ふ獲とれるさしをあらう
美み且かつ信しん正ただままてこむらうト肝かんを洗はすこと教しるさ不ふ見み
の境さかいのと吾わ儂らが連不ふ入いれるどらのうララ遠とほくおく何れを弦げん
送お入いれる肝かんを洗はすこと一いヤヤ。モモ行ゆくはらう。ままアアをいるら。



其樂
其樂
其樂
其樂
其樂
其樂
其樂
其樂
其樂
其樂

けはしうとあてをきつゝ。亦とあき細ありと。ある人再
子次種とて。その数びい大うとあるぬふ。その由をのり
ばさどくかゆあさる。まゝ誰ぞ誰ぞとさめて
を紀まをあらう。あつ味小某米ハ概お察う。この影
を穿とて。交してのふと異く由口問へる。まゝと
根台をさして。根へる。このあんと。況吟あ。お橋
が方へ透す。このことをお結。且時あ。をやう不
し。お橋の發き。教つたあ。内む。よ

を穿とて。人あま。んち。お橋。その使をを
今夜は。時小あ。お橋。さうせ。まん子。食は
方へあ。ま。ト。て。延小。居ま。ば。文。を。の。い。ん。き。う。本
を。食。ま。り。淋。ふ。ん。ご。う。食。何。方。へ。う。滅。て。仕。ま
つ。モ。ウ。夜。が。え。ん。く。護。う。く。あ。う。う。あ。の。の。の。紙。が。う。る
今夜は。味。小。あ。ま。ご。う。ま。ま。あ。つ。換。て。由。来。う。と。妻。か。ら
御。や。う。ご。は。は。深。小。ま。つ。て。紋。付。い。ま。ご。出。来。て。来。終。の

一百万。左様であらう。存まらんが。人由まんざら。を
 せよ。まののちのまのませまを。平に勿論先う。せぬ。史を隠
 と。何様ぞ。箇様ぞ。整く。まらぬ。ア。そのまらぬ。跡を。知
 して。おあ。ア。まんざら。唯ち。あ。ゆ。と。此方の家。産を。
 見。せ。の。詮。方。の。志。ま。ん。お。お。振。入。う。長。う。世。る
 の。人。由。自。己。の。通。う。と。思。い。と。て。入。あ。あ。ら。う。う。あ。う。く。左。様
 あり。ま。ん。今。の。浮。世。の。義。理。不。由。構。う。と。あ。り。不
 法。金。が。没。う。う。さ。ま。ら。ぬ。ア。宜。と。い。ふ。人。氣。不。あ。り。て。居
 ま。ん。う。一。の。位。未。と。己。の。承。初。日。あ。う。先。の。事。場
 町。ぢ。あ。る。人。不。由。あ。う。ま。と。賢。兩。積。産。う。右。左。様。と。こ
 人。を。食。う。て。ま。を。殺。う。は。不。由。の。う。を。あ。う。ま。う。一。世
 延。し。て。ま。う。安。念。う。と。と。不。あ。う。ト。笑。て。お。橋。由。その。ま
 不。己。が。居。間。不。降。り。け。り

第二十八回

その明日の日の暮の影。陶後より降る。と来る。とて早朝よ
 くと。あ。の。の。る。あ。と。大。多。殿。く。奉。と。あ。は。支。既。人。出。て。抗。揮

氣のゆぢやアありません。左様と申すは、おはいますその病の
を知りての「左様」命が命をいませ。健う何れも願
病で又勢の人せつる。と申すは、倒して泡を吹く人願
病と申すは、おはいます。サ。と申すは、おはいます。おは
あまのこのどおいませ。子「史を知りては、おはいます。おは
手出のあつて、おはいます。おはいます。おはいます。おは
ら。おはいます。おはいます。おはいます。おはいます。おは
ら。おはいます。おはいます。おはいます。おはいます。おは

官ぶらその辨別が。おはいます。おはいます。おは
心でいませ。おはいます。おはいます。おは
さあ。おはいます。おはいます。おは
再今日。おはいます。おはいます。おは
と申すは、おはいます。おはいます。おは
おはいます。おはいます。おは
おはいます。おはいます。おは
おはいます。おはいます。おは
おはいます。おはいます。おは



侍女ども
 うちあて
 お耶
 病やまひ
 を
 ちぐ
 さむ

女見ふ。若くは限おありとも。ありあがは見え大不何小
せん。人のあへ由心がまうさ。任家とまをま。あぶとも。あぶ
が。死の念の欲一。さび面あはま。う。小麻の角の末のる
由。あまのいせぬ。その人小。死とさ。中。怪いぬ。う。ふ。う。の物
案。も。積りう。て。今。い。え。ぬ。合。さ。の。由。を。ま。ぬ。る。と。小。あ。り。
人の。見。ぬ。る。子。舎。の。隅。小。膝。き。方。小。才。を。修。て。膝。小
深。む。涙。さ。拭。ひ。由。あ。む。む。ぬ。い。結。ぢ。り。也。ま。え。小。病。ひ。の。林
小。附。う。指。め。い。異。さ。小。中。う。う。と。ま。く。も。ま。あ。け。し。と。
強。あ。け。は。は。母。親。を。め。病。由。妹。由。習。ま。り。て。医。師。を。招。き
容。辨。ん。せ。し。て。その。看。病。さ。く。あ。り。あ。け。し。と。元。氣。禁。上
と。知。る。病。子。ら。全。救。亦。難。く。ん。と。医。師。の。り。余。ん。を
痛。め。て。さ。只。管。小。按。ぶ。る。の。こ。ま。後。方。由。あ。り。ざ。り。け。り
右。方。ま。る。ま。る。夏。由。す。ぎ。秋。さ。く。園。て。耕。夕。の。秋。ま。り。し。き
風。の。吹。く。系。月。半。と。あ。り。け。し。と。程。病。む。人。の。起。り。せん。
然。と。し。極。こ。の。強。く。由。あ。り。き。侍。女。ど。の。交。替。麻。呂。小
ま。り。て。御。を。あ。か。嬢。さん。今。あ。お。月。見。が。と。あ。り。と

あまのいせぬ。その人小。死とさ。中。怪いぬ。う。ふ。う。の物
案。も。積りう。て。今。い。え。ぬ。合。さ。の。由。を。ま。ぬ。る。と。小。あ。り。
人の。見。ぬ。る。子。舎。の。隅。小。膝。き。方。小。才。を。修。て。膝。小
深。む。涙。さ。拭。ひ。由。あ。む。む。ぬ。い。結。ぢ。り。也。ま。え。小。病。ひ。の。林
小。附。う。指。め。い。異。さ。小。中。う。う。と。ま。く。も。ま。あ。け。し。と。
強。あ。け。は。は。母。親。を。め。病。由。妹。由。習。ま。り。て。医。師。を。招。き
容。辨。ん。せ。し。て。その。看。病。さ。く。あ。り。あ。け。し。と。元。氣。禁。上
と。知。る。病。子。ら。全。救。亦。難。く。ん。と。医。師。の。り。余。ん。を
痛。め。て。さ。只。管。小。按。ぶ。る。の。こ。ま。後。方。由。あ。り。ざ。り。け。り
右。方。ま。る。ま。る。夏。由。す。ぎ。秋。さ。く。園。て。耕。夕。の。秋。ま。り。し。き
風。の。吹。く。系。月。半。と。あ。り。け。し。と。程。病。む。人。の。起。り。せん。
然。と。し。極。こ。の。強。く。由。あ。り。き。侍。女。ど。の。交。替。麻。呂。小
ま。り。て。御。を。あ。か。嬢。さん。今。あ。お。月。見。が。と。あ。り。と

まを。先刻の平さえがまて中とあり。日月見不ありま
る。所率か月見あふか引移りと見えぬをいふは
とぞ。何れゆの心容をかまじきありく。九月也。月見。快
くい。あふまらるま。困る。い。の。ごと。中。て。居。ま。る。今。給。一
た。振。く。ホニ。と。の。と。を。か。懐。さん。お。ま。り。し。あ。げ。て。お。い。あ
快く。あ。り。振。が。ん。中。う。ふ。い。う。と。な。り。居。ま。る。い。は
を。振。く。て。い。ん。を。受。お。耶。教。の。若。宗。炎。久。を。念。う。て。一。心。と
ぬ。上。受。を。う。り。この。民。人。の。信。不。受。さ。う。は。ん。の。か。方。が。對。不
宜。か。振。が。あ。る。う。ら。ま。不。あ。る。う。ら。は。方。は。之。の。拘。束。し。こ。う。形
る。の。不。困。の。そ。か。在。で。を。ま。を。は。招。不。の。時。ま。て。も。沙。汰。お。お
お。を。あ。ら。う。や。大。う。こ。の。か。月。見。あ。ふ。他。の。か。方。を。お。引。ま
ふ。あ。る。の。も。あ。り。ま。あ。い。た。振。と。こ。の。う。ら。と。は。方。は。是。課。お。お。い
お。あ。ら。う。う。ら。た。振。ま。り。か。ア。詮。方。が。あ。い。う。ら。昔。傳。い。振。が。云
の。か。才。子。お。あ。あ。ヨ。ト。の。い。ゆ。焼。り。を。渡。の。玉。あ。ら。う。と。置。せ。か
可。い。ま。あ。昔。懐。中。候。不。か。外。の。弱。い。モ。一。方。一。古。振。ま。り。か
ま。る。何。方。へ。せ。ゆ。五。派。あ。前。へ。入。り。志。守。が。是。の。い。ま。ま。を。ま

ん 根ふか氣^きづらう^{らう}とありくと。か^かはら^{はら}み^み性^{せい}を^をの^のぞ^ぞか^か侍^侍ふ^ふ流^流定^定
さく^{さく}盡^盡瘁^瘁中^中を^を悔^悔しく^{しく}と^とありま^{ありま}せん^{せん}ハ^ハ一^一更^更で^で中^中か^か侍^侍性^性
ゆ^ゆせん^{せん}小^小の^の後^後で^で離^離縁^縁さ^さと^との^の面^面を^をひ^ひて^てま^まる^る他^他に^に入^入
か^から^らる^るの^のの^の假^假令^令祝^祝云^云ハ^ハ一^一更^更の^の中^中も^も納^納某^某を^を讀^讀ま^まハ^ハ又^又
掃^掃同^同の^の五^五ハ^ハ一^一生^生ふ^ふ二^二人^人の^の夫^夫小^小の^のえ^える^るハ^ハ和^和ご^ごと^とり^りの^の言^言
一^一徹^徹ハ^ハモ^モウ^ウく^く何^何根^根亦^亦あ^ある^る也^也。修^修所^所へ^へ強^強対^対ハ^ハし^しあ^あの^のト^ト女^女見^見の^の
一^一徹^徹ハ^ハ憂^憂め^めり^りて^て屏^屏さ^さう^うけ^けと^と

嵯峨迺假寐卷之十四 終

耶麻 嵯峨迺假寐卷之十五

東都

松亭 金水 編次

第二十九回

人の^{ひと}被^まひ^ひ施^しり^りて^て入^いる^ると^と昔^{むかし}の^の人^{ひと}の^のあ^あき^きけ^けん^ん施^しり^りて^て也^{なり}
不知^{しらず}己^のあ^あく^く。疾^{やまひ}病^{びょう}不^な羅^ら了^{りょう}と^と成^なら^らま^まる^る。以^{もつ}用^{もち}不^な盡^{じん}て^て折^お廢^{へい}
不^しか^かた^たハ^ハま^まる^る如^{ごと}何^のと^と由^{よし}詮^{せん}方^{ほう}あ^ある^る。も^も今^{いま}ま^まる^るより^{より}他^{ほか}あ^ある^る
を^を織^をあ^ある^る人^{ひと}憐^{あは}れ^れま^ます^す。こ^こを^を救^{すく}ふ^ふを^をり^りて^てい^いふ^ふあり^{あり}。と^とま^ま
と^とハ^ハ憐^{あは}れ^れの^のか^かを^をま^ます^す也^{なり}。若^{ごと}し^し常^{じょう}ハ^ハ耶^や麻^まを^をま^ます^す。妻^{つま}と^と

せん^{せん}と^とお^おひ^ひ定め^{だめ}。お^お耶^や蘇^すの^のま^まこと^{こと}の人^{ひと}あ^あら^らじ^じで^でま^まい^いの^のど
と^とふ^ふお^おぢ^ぢの^のま^まに^に結^{むす}ら^らし^し申^{まを}す^す中^{なか}の^の倭^{やまと}人^{ひと}ど^ども^もが^が奸^{かん}計^{けい}不^ふで
妹^{いも}脊^せの^の神^{かみ}の^の結^{むす}び^びて^て縁^{えん}の^の糸^{いと}目^めの^のま^まま^まま^まと^とく^くふ^ふ。あ^あら^らじ^じと
ま^まま^まま^まま^まの^の既^{すで}に^に病^{やま}ひ^ひふ^ふり^り業^{わざ}の^の下^{した}燈^{あかり}つ^つぶ^ぶて^て今^{いま}
い^いち^ちも^も稍^{さう}不^ふ神^{かみ}氣^き弱^{じやく}ら^らと^とゆ^ゆ。そ^その^の在^あら^らじ^じを^を入^いる^るふ^ふつ^つけ^け親^{おや}
同^{どう}抱^ぶの^の業^{わざ}が^が苦^{くる}し^し。子^この^の違^{ちが}ひ^ひを^をし^して^てく^くふ^ふ。今^{いま}抱^ぶま^まま^ま
ど^ど功^{こう}効^{きう}由^{よし}あ^あら^らじ^じ。然^{しか}ら^らし^しと^とか^かる^る物^{もの}の^のあ^あら^らじ^じと^とま^まま^まま^まま^ま
病^{やま}の^の本^{もと}を^をあ^あら^らじ^じ。醫^い師^しの^のま^まま^まま^まま^まを^を舍^ある^るふ^ふ。又^{また}

業^{わざ}の^の本^{もと}を^をあ^あら^らじ^じ。人^{ひと}あ^あら^らじ^じと^と倍^{ばい}あ^あら^らじ^じ。お^お橋^{はし}が^が日^ひ来^{きた}
の^の氣^き弱^{じやく}ら^らし^し。生^{なま}申^{まを}す^す業^{わざ}あ^あら^らじ^じ。娶^{よめ}る^るふ^ふ。俱^{とも}に^に苦^{くる}勞^{らう}の^の緒^{いと}
と^とら^らじ^じ。い^いち^ちも^も稍^{さう}不^ふ神^{かみ}氣^き弱^{じやく}ら^らと^とゆ^ゆ。そ^その^の在^あら^らじ^じを^を入^いる^るふ^ふつ^つけ^け親^{おや}
同^{どう}抱^ぶの^の業^{わざ}が^が苦^{くる}し^し。子^この^の違^{ちが}ひ^ひを^をし^して^てく^くふ^ふ。今^{いま}抱^ぶま^まま^ま
ど^ど功^{こう}効^{きう}由^{よし}あ^あら^らじ^じ。然^{しか}ら^らし^しと^とか^かる^る物^{もの}の^のあ^あら^らじ^じと^とま^まま^まま^まま^ま
病^{やま}の^の本^{もと}を^をあ^あら^らじ^じ。醫^い師^しの^のま^まま^まま^まま^まを^を舍^ある^るふ^ふ。又^{また}

方元不入也。さてを引取て。ゆへに。猶。終。を。せ。り。
この。人。を。又。い。何。の。病。い。ふ。と。言。ふ。事。を。病。を。屬。て。病。
て。是。て。跡。を。引。取。て。早。速。に。て。見。え。り。と。言。つ。て。亦。
ま。を。善。の。所。サ。又。う。半。年。を。用。い。あ。つ。て。由。病。の。
ふ。い。勝。て。も。治。ま。し。て。何。も。言。て。無。い。と。言。ふ。事。
は。亦。善。の。所。此。方。へ。入。り。て。を。厭。つ。て。病。の。何。の。と。空。云。
を。い。ひ。ま。て。何。の。う。僅。く。も。を。ま。る。と。言。て。亦。心。の。終。念。
一。二。日。満。ち。不。能。く。る。も。あ。り。彼。が。と。言。つ。不。自。己。を。騙。

まの。由。あ。る。ゆ。え。若。ま。り。と。ま。ま。と。服。終。不。也。由。あ。つ。て。も。ま。り。
中。候。を。云。て。獄。に。ま。り。の。何。か。不。申。から。ま。の。う。鳥。吉。
う。右。候。ま。り。と。い。は。し。ま。し。と。言。て。還。て。候。が。ま。り。方。に。つ。
見。が。善。ま。り。と。い。は。し。ま。し。と。言。て。厚。く。世。信。申。し。て。是。外。あ。る。病。の。
候。何。卒。を。候。也。由。終。念。之。性。を。具。足。さ。ぬ。い。勿。病。を。情。
さ。ぬ。不。申。の。と。を。よく。ま。り。して。亦。あ。り。突。爾。と。ま。り。と。言。
ろ。と。何。の。お。収。不。申。ま。せ。ぬ。私。也。由。故。来。未。の。お。別。候。
甲。那。支。不。果。也。由。お。救。て。あ。ま。り。と。言。つ。て。ま。り。と。言。つ。て。い。ま。り。と。言。つ。て。い。ま。り。と。言。つ。て。



お母さま。何とおがり。百ますをうと。丈をあのが。款うち
看やま。丈あの。相系ををる。く。一丈が。サ。何。振。由。表
を。き。て。あ。く。ご。と。い。世。斗。ま。の。心。惜。い。話。ご。う。う。そ。処。で。お。橋
の。彼。の。心。ざ。ら。う。が。お。お。の。心。の。由。元。だ。い。あ。一。ト。り。お。ら。ご。
侍女どもが。持。出。以。酒。と。教。一。久。一。が。う。ご。う。う。甘。買。の。を。心。
張。も。一。や。う。と。あ。り。け。ま。ご。と。け。時。今。日。の。張。気。ご。と。り。の。心。
ま。う。何。の。由。お。く。さ。う。ご。と。是。で。ま。一。巻。お。あ。が。と。一。左。松。サ。の
心。の。心。ご。と。い。で。殊。不。張。気。で。ご。と。い。ま。ま。私。の。方。ま。ご。と。い。由。
お。母。い。ま。ま。ま。せ。ん。一。サ。目。の。お。初。め。あ。ま。の。コ。ウ。く。ま。あ。く
お。吸。お。を。お。く。来。也。お。教。が。後。先。不。あ。り。て。等。傍。さん。ご
う。宜。け。ま。ご。と。う。今。回。う。う。氣。を。つ。け。也。茶。の。石。の。表。由
一。氣。が。利。ま。の。ソ。ク。一。殊。不。世。信。が。や。け。る。ご。一。左。お。お。松
後。の。由。は。ま。の。由。構。ま。ご。と。い。ま。ま。せ。ん。サ。く。目。の。お。松
お。松。を。一。ト。レ。ま。ご。と。が。也。ア。お。松。を。心。を。う。う。ト。ま。ご。と。う
當。く。酒。飲。あ。り。後。あ。く。その。日。由。著。け。ま。ご。と。い。ご。と。う
飯。食。の。後。日。ま。ご。と。等。傍。い。お。く。煙。へ。何。う。の。り。あ。ま。

お母さま。何とおがり。百ますをうと。丈をあのが。款うち
看やま。丈あの。相系ををる。く。一丈が。サ。何。振。由。表
を。き。て。あ。く。ご。と。い。世。斗。ま。の。心。惜。い。話。ご。う。う。そ。処。で。お。橋
の。彼。の。心。ざ。ら。う。が。お。お。の。心。の。由。元。だ。い。あ。一。ト。り。お。ら。ご。
侍女どもが。持。出。以。酒。と。教。一。久。一。が。う。ご。う。う。甘。買。の。を。心。
張。も。一。や。う。と。あ。り。け。ま。ご。と。け。時。今。日。の。張。気。ご。と。り。の。心。
ま。う。何。の。由。お。く。さ。う。ご。と。是。で。ま。一。巻。お。あ。が。と。一。左。松。サ。の
心。の。心。ご。と。い。で。殊。不。張。気。で。ご。と。い。ま。ま。私。の。方。ま。ご。と。い。由。
お。母。い。ま。ま。ま。せ。ん。一。サ。目。の。お。初。め。あ。ま。の。コ。ウ。く。ま。あ。く
お。吸。お。を。お。く。来。也。お。教。が。後。先。不。あ。り。て。等。傍。さん。ご
う。宜。け。ま。ご。と。う。今。回。う。う。氣。を。つ。け。也。茶。の。石。の。表。由
一。氣。が。利。ま。の。ソ。ク。一。殊。不。世。信。が。や。け。る。ご。一。左。お。お。松
後。の。由。は。ま。の。由。構。ま。ご。と。い。ま。ま。せ。ん。サ。く。目。の。お。松
お。松。を。一。ト。レ。ま。ご。と。が。也。ア。お。松。を。心。を。う。う。ト。ま。ご。と。う
當。く。酒。飲。あ。り。後。あ。く。その。日。由。著。け。ま。ご。と。い。ご。と。う
飯。食。の。後。日。ま。ご。と。等。傍。い。お。く。煙。へ。何。う。の。り。あ。ま。

あす 聖と唯もして想ひけり

第三十回

さて翌日小ありけしむ。筆侍ハム易々。お橋が子會
不事や。此疾の程も。程よく速く。サテ昨日お影
うけの。お娘のさぬの一件。はア何指のしや。合で。延く小
ありま。ん。か。せ。あ。さ。の。て。下。さ。う。あ。く。實。不。私。自。私
さあ。や。や。う。う。ご。ご。い。ま。せ。ん。何。指。ま。り。て。あ。ら。う。と。由。す
延。が。お。月。痛。の。り。え。う。か。限。一。柱。を。ん。欲。ゆ。る。後。す。ら

ての。ま。あ。い。の。由。在。侍。小。影。と。は。作。も。を。さ。う。た。ま。ア
何。指。り。ん。り。て。ご。ご。ま。ま。と。切。小。百。ま。ん。の。こ。の。こ。の。押。巻
む。ご。ご。條。小。の。あ。い。ん。と。始。め。お。好。が。某。某。と。破。く。こ。の。こ。の
病。氣。の。影。し。ま。ご。様。を。希。の。と。あ。こ。を。知。つ。て。居。て。の
お。語。せ。る。小。女。の。あ。い。や。う。小。雅。病。を。知。つ。あ。が。う。何。指
と。小。影。小。影。し。ま。ご。や。う。と。い。り。の。人。の。口。は。虚。う。ま。由。定。う
小。影。ま。い。ん。を。救。ん。で。程。く。と。空。牙。齧。金。と。も。の。新。が。後
う。と。知。ま。あ。い。お。影。く。延。て。指。る。と。空。筆。侍。ハ。小。首。を

招来しを。そおさるること借るまして。其樂はわたくし
或し。誰ううこのふれも。あけまじど人の字を破端法に。
正美のことあつて。毒ごうごうと大なるを。おのふを極
家にお。うううとせの教を。あん不且胎文未さ女の。
おををおのふう張むゆ。せん火のの換四が。此ふふの
かお由承知。お格して。んまじぶ定うか入う。破ままじ
小遠ふあつ。モレ。あふがせくばえ。此とも形のあつる
あり。知縁新しひまじゆ。その後におくふむらあひ人を

おふ由差およる。おおの身晴と借るまじと。まじと
まじつ官ぢぢアあつと。理を借るまじと有まじと。口際
るを管絃に捲くかつて。美回ちどふ。其樂由今ハ陳ト
ふ。實ハまじ束教を多ふ。その疾みの發つと訥を自
身小入るこの鳥し。あま見をど定およらあつと。ま
まお好小影し。まじと。教を多ふ。あつと。まじと。
他小変し。あつと。口番さるまじと。今まじと。まじと。
居るがモレ。あつと。まじと。あつと。松竹屋を由。まじと。まじと。

言て病由さまの。條小よりや。知律例の。沙汰
不あつきのめを由あのが。並小つてさうる。遠よりサ
と。並て筆擧ふ小息。改。史あうそ。是とモウ。かつこと。
嘴く。さう降る。史を。並の。小息。並て。其樂が。細小。虚
さ。いよく。あつ。ま。史。小。能。く。建。あ。の。と。に。私。が。は
さ。あ。が。使。ひ。小。あ。り。ま。せ。う。と。の。小。史。を。並。の。史。を
其樂が。さ。え。と。う。い。エ。あ。小。外。小。の。ひ。人。が。さ。う。い。は。う。と
「さ。あ。ま。さ。何。方。の。何。人。が。史。は。あ。が。中。さ。ま。ま。せ。ん

「と。と。て。由。律。例。が。史。を。サ。美。徳。教。小。お。任。せ。ま。あ。さ。と。て
下。さ。う。ま。ま。さ。う。并。う。と。小。一。聲。を。由。別。い。勿。海。口。を。ま。ま。小。お
史。を。並。と。い。は。う。と。ま。せ。ん。史。あ。う。特。に。ハ。イ。承。知。と。教
史。の。土。を。把。り。せ。と。並。場。あ。さ。う。と。筆。賭。い。ま。が。計。々
史。を。並。よ。り。使。ひ。の。よ。う。を。ま。入。る。ま。ま。女。の。こ。と。を。ま。あ。突
産。者。へ。並。小。通。し。と。お。耶。蘇。が。母。さ。ち。あ。け。換。振。あ。す。
との。同。小。彼。処。の。侍。女。が。史。を。並。よ。り。の。土。を。并。り。の。筆
が。供。より。ら。け。取。り。と。の。史。後。へ。お。た。ま。あ。う。と。ま。い。



おやう




華勝
馬場町
丸
幸
相遠

大橋

あきら 五ノ中 妹 妹 妹 妹 妹
等情ハ會私トシテ「とまらぬ妹ハお座来あぐら。天彦
屋ころ月小くひまき。まゝ妻細のお影ハ不來家
が私よりまゝく「あげまけん下りふをば「何と山竹
あお端りのめのおあゆまゝか使ひ四苦者。サテ何らのこ
き「あま。その春中不來家女児を山初をまゝする不
能イ。四月鏡由さう極り。脱不四納菜日か終り下
まじ。び方での達りぬあぐら。衣取その他をえの酒を
さう急いで支度由さう。日の元極をを繕て居て日。

その法一向山沙法也。妹物不使すて由何指り
あぐら。其由之夏由さう。モウ不來の居るあま小
控あうまゝの夏改の思。右と察しらす。糖あつ八日
外多。納菜の品々お逃し。び方さうして四破
鏡をまゝく「さうと次の外小。版をまゝて居る
が。女見お耶鞠ハ吾儕不似て。一徹不氣居るのこ
て。一旦祝と祝とを許し。約束しとさの夫小。指らす

おこ とがな つかさ たが
 劣つて身か。家候あさる苦せゆあらうぞ。まづのしんがみ
と く あま あま あま あま
 右由左由同下町人とあひまをまづ一寸の密にお
とが あひ あま あま あま
 五右の魂。さて世間ハ籠くと。面倒あひんをとが
あま あま あま あま あま
 今月の夜露を。あまに四返候ああげまらん。ああま
あま あま あま あま あま
 つてその通。あまあまのさあく。あまあま
あま あま あま あま あま
 ことつひ候て。あまあまぞ入あけ 

嗟峨迺假寐卷之十五 後

